

授業科目	教育実習 I				単位	2		
履 修	選択	関連資格	高一種免(看護)		ナンバリング	NU34123J		
開講年次	4年	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1 DP5-2			
担当教員	一期崎 直美、新谷 恭明							
授業概要	教育実習を通して看護教育者として必要な態度を養い、指導力を啓発する機会となることを意図している。具体的にはこれまで履修した教職科目及び専門科目等の知識及び理論と結び付けながら、下記の内容について観察・参加・実施を行い、各自の教職の実践的技能の向上を目指す。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで履修した教職科目及び専門科目等の知識及び理論に基づいて、授業を展開できる。 2. 実習校の教師及び生徒との交流を通して、望ましい教師の資質及び能力の向上を図ることができる。 3. 教育における研究課題を発見し、課題解決に向けた取り組みについて考えることができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	15	0	35	50	100	
知識・理解 (DP1-1)					5		5	
知識・理解 (DP1-2)			5		5		10	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10		20		30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)					5	5	10	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)						5	5	
態度 (DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						20	20	
技能・表現 (DP5-2)						15	15	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで履修した教職科目及び専門科目等の知識及び理論に基づいて、科学的な知識を取り入れ、生徒が学びあう授業を展開できる。 2. 実習校の教師及び生徒との交流を通して、積極的に望ましい教師の資質及び能力の向上を図ることができる。 3. 教育における研究課題を発見し、課題解決に向けた取り組みについて具体的に考えることができる。 				<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで履修した教職科目及び専門科目等の知識及び理論に基づいて、授業を展開できる。 2. 実習校の教師及び生徒との交流を通して、望ましい教師の資質及び能力の向上を図ることができる。 3. 教育における研究課題を発見し、課題解決に向けた取り組みについて考えることができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復	

				習時間 (分)
1	<p>○実習校の実情や実習期間中の行事等を考慮しながら、以下の事項について見学・参加・実施を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育の概要(学校教育目標・学校経営・教育課程含む) 2. 学校組織活動 3. 学級経営(経営方針、組織、環境、事務、家庭との連絡等) 4. 生徒理解・生徒指導(日常生活、学校行事等) 5. 学習指導(授業観察・授業設計と授業展開及びその評価等) 6. 学内実習指導 7. 看護臨地実習における指導 8. 進路指導 9. 教育者としての資質向上と自己研鑽 10. その他 	実習	<p>実習校との打合せ。 実習期間の計画立案。 事前学習。 指導案作成。 教材作成。 授業記録作成 授業参観記録記入 講話記録記入 実習記録(日々)記入。 実習終了後レポート作成。</p>	2時間～ 4時間
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	<p>看護教員に必要な資質や能力及び今までに履修した教職科目及び専門科目の知識・技術がベースになります。授業を教えるためには、1つのテキストを参考にだけでなく多くの資料を活用してください。参考図書を利用したり、信頼性の高いホームページを活用したりして準備を積極的に進めてください。また、新しい正確な知識に基づいて授業を展開できるよう、積極的に本学の先生方に相談してください。</p>			
テキスト	<p>看護科教育法の授業で使用したテキスト。 事前及び事後指導で使用した資料。 実習校で使用される教科書、副教材等の資料。</p>			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>実習校で使用される教科書、副教材等の資料。 その他、教育実践研究時に配布した資料等。</p>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>教職課程としての実習は、今回が最初で最後になります。充実した実習となるように積極的に臨みましょう。学校では、教職員として生徒と関わるだけでなく、教職員と連携した行動がとれるよう、教職課程の既習事項を復習するだけでなく、新聞やニュースで最新の教育時事についても理解してください。</p>			
達成度評価に関するコメント	<p>実習校の評価を参考にします。また、実習中の記録物や実習後のレポートについて評価します。記録およびレポートは、実践したことだけでなく、各人の目標にそった自己の課題やその課題解決に向けた具体的行動を記入しているかどうかで評価します。実習中の記録物や資料等の整理状況や提出期日を守れているかなどもについても評価します。</p>			